

純水手洗い洗車

作業マニュアル

目次

作業手順

洗車作業に入る前に

洗車作業

洗い流し

仕上げ

マニュアルの見方	2
使用ツールと設備の説明	3
STEP 1 洗車をする前に	9
STEP 2 下回り洗浄	12
STEP 3 予備洗浄	16
STEP 4 泡かけ	17
STEP 5 タッチアップ	19
STEP 6 洗い流し	23
STEP 7 純水すすぎ	25
STEP 8 水減らし	28
STEP 9 エアガン処理	29
STEP 10 拭き上げ	29
STEP 11 ステップの拭き上げ	31
STEP 12 ダッシュボードの清掃	34
STEP 13 仕上がり確認	36
撥水コート洗車の場合	
ミネラルオフの場合	43
ミネラル取り洗車	44

作業時間



👑 王冠マークはプレミアム純水手洗い洗車を示します。以下プレミアムと表記します。

マニュアルの見方

 **目的** ここではマニュアルの見方および洗車を素早く行うための流れを説明します。

マニュアルの内容について

このマニュアルは洗車についての一般的な車種の作業手順を記載しています。お客様の車種やオプションによって、まれに手順や作業内容が異なる場合があります。不明な点がある場合などは KeePer 技研株式会社までご相談ください。

記号について

⚠ 注意

- お客様の車の破損につながるおそれがあることを説明しています。

👉 参考

- 作業を行うにあたり、目的、ポイント個所およびコツなどがある場合や知っておくと便利なことを説明しています。

🌱 春の洗車で気をつけることを説明しています。

☀ 夏の洗車で気をつけることを説明しています。

❄ 冬の洗車で気をつけることを説明しています。

☀ 泥の洗車で気をつけることを説明しています。

STEP 3 予備洗浄

 **目的** ボディに付いた砂汚れやほこりを洗い流し、ボディの熱冷ましを行う作業です。

- ① ボディに付いたほこりをルーフから洗い流す。上面は手前から奥に、側面は上から下へ1パネルごとに流す。

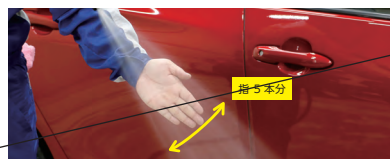
- 高压ガンの幅を指5本分に切り替え、ボディまで約50cmの距離を保つ。

⚠ 注意

- 高压ガンは必ず下に向けた状態で移動すること。
- ☀ 夏場、窓ガラスに飛び石の傷がある場合は車両を日陰で冷ましてから洗車を始めること。

👉 参考

- ☀ 泥なごの汚れが確実に落ちたことを確認します。
- 🌱 春先は花粉や黄砂が隙間に入りやすいため確実に流します。



使用ツールと設備の説明



目的

作業を行う前に使用ツール、設備の準備を行う。

使用ツール(*推奨ツール)



快洗 Tao る

(現場の要求に応えたプロ用洗車タオル)
●洗車のプロが何度も検証を繰り返してきた洗車に最適なタオル。

●おろしたてでもすぐに使用でき、吸水性が抜群です。

●厚手の 200 枚で洗車の作業に丁度良いサイズ。

仕 様 綿 100%
サ イ ズ 約 480×330mm



キーパークロス

(特殊構造マイクロファイバークロス 洗車・車内清掃・ビュアキーパー用)
●コーティング施工車の洗車後の最終拭き上げに最適です。

●マイクロファイバー(超極細繊維)がすばやく汚れをかき取り、コーティング本来の効果を発揮させます。

●他にも車内清掃など、いろんな用途に活躍します。 ポリエステル 80%、
タイロン 20%

仕 様
サ イ ズ 約 400×400mm



ラ・モップⅡ

(パッケージ付 手洗い用モップ)

●手洗い洗車に最適な高品質なオーストラリア産の羊毛を使用。

●羊毛仕立てで車に優しく、グローブタイプなので細なところまで洗いがすく、すばやく洗車ができます。

仕 様 オーストラリア産羊毛



左: 下・モップ(下回り用ハンドモップ)

(パッケージ付 手洗い用モップ)

●手洗い洗車に最適な高品質なオーストラリア産の羊毛を使用。

●ボディを洗うラ・モップⅡとは別のモップと一目で分かる、下回り用の手洗い用モップです。

仕 様 オーストラリア産羊毛

右: タイヤブラシ(中)

(タイヤの洗浄用ブラシ 中サイズ)



左: ブレーキダストクリーナー (B.D.C) (ブレーキダストクリーナー)

●化学的な力で、ホイールのブレーキダストを溶かして落とします。頑固な油汚れも強力に洗浄します。
●ホイール周辺の部品に対しても変色させる恐れがない安心タイプ。

内 容 量 10L

中: ブレーキダストクリーナー用スプレー容器 (蓄圧式スプレー容器)

内 容 量 1L

右: 下回りスプレー容器 冬汚れ専用 (蓄圧式スプレー容器)

内 容 量 1L



プラセーヌラージ

(特殊合成セーム)

●洗車後の大きな水減らし作業に最適です。

仕 様 PVA スポンジ
(芯材: ポリエステル)
サ イ ズ 約 690×430mm



クイックルハンディ

(推奨ツール)

インセクトリムーバー

(ボディ・ガラス面の強力虫取り剤)

●特殊な浸透剤を使用。頑固な虫の死骸を「ふやかして」簡単に落とします。

●特殊な「浸透剤」を使用しているため、窓の撥水剤、ボディのコーティング剤を落としてしまうことがありません。

内 容 量 500ml



タールリムーバー

(ピッチ・タールクリーナー)

●ボディやホイールに付いたピッチなどの油性の頑固な汚れを除去します。

●安全な溶剤を使用しているので、安心してボディ全体に使用できます。

内 容 量 300mL



左: タイヤキーパー

(水性タイヤワックス)

●多くのお客様の意見を元に開発されたタイヤワックス。上品なツヤが多くの方から支持されます。

●伸び、ツヤが良く、使用量は今までの約半分。ローコスト・ハイパフォーマンスなタイヤワックス。

内 容 量 10L

中: 柄付 タイヤスポンジ

(タイヤワックス塗布用)

右: マウンテンポット

(タイヤキーパー用 小分け容器)

内 容 量 250ml



コックピットクリーナー (ツヤなしタイプ)

(ダッシュボード用クリーナー)

●日本初のツヤなしタイプ。質感あふれる仕上がりです。

内 容 量 500ml



注意

- 快洗 Tao る、キーパークロス、ラ・モップⅡ、プラセーヌ および シタ・モップは必ずきれいな物を使用すること。
- 地面に落としたものは絶対に使用しないこと。

👑 王冠マーク: プレミアム

使用設備



快洗 Jr.5RO

- 1 台で「手洗い洗車」から「純水仕上げ」までできる移動式手洗い洗車専用機
- 快洗 Jr. に純水機能を標準装備
 - 生産能力 40L/h 純水精製装置、20L 圧力タンクを装着
 - 1 時間で約 6 台の純水仕上げを実現
 - 100V だから移動が自由。
 - 100V ながら、適量かつ強力な水スプレーを実現。
 - 特殊な専用ケミカルにより泡を洗い流さずに撥水コートを定着させることができます。(特許取得済)
 - < 特許番号 第 4571301 号 >

サイズ 高さ 2080mm
幅 960mm
奥行 600mm



パワーモース 4

- 独特の泡持ちの良さ、きめの細かさで手洗い洗車が効率良くできます。
- すばらしい汚れ落とし能力を持ちます。
- パワーモース 4 とパワーベースコート 2 に含まれている界面活性剤は、同じ特殊な界面活性剤であるため泡 (パワーモース 4) を車にかけてタッチアップしたあと、その泡を洗い流す必要がなく、撥水剤 (パワーベースコート 2) を直接泡の上からかけても問題なく撥水コートが定着します。※特許登録済

内 容 量 10L



キーパーモース

- コーティングの撥水低下を防止する発泡剤 (パワーモースとしてそのまま使えます)
 - 一般的な洗車用洗剤と異なり、特殊な化学構造をした洗剤で、優れた泡立ちとすすぎ性を発揮します。
- 洗車において大切な優れた泡立ち・泡持ちがありながら、水をかけると簡単に泡が崩れ落ちる特徴のある洗剤。泡切れが良いだけでなく、洗剤分そのもののすすぎ性が非常に良いので、表面に残らずコーティング本来の効果を発揮させます。
- 化粧品としても利用されるような肌に優しく、適切な洗浄力と過度な脱脂を起こさない特徴が、コーティングに悪影響を与えず、コーティング被膜を守ります。

内 容 量 10L



パワーベースコート 2

- 強い撥水性と耐久性が好評のロングセラー撥水コート剤。
- 「パワーモース 4」との相性が抜群
- パワーベースコート 2 とパワーモース 4 に含まれている界面活性剤は、同じ特殊な界面活性剤であるため泡 (パワーモース 4) を車にかけてタッチアップしたあと、その泡を洗い流す必要がなく、撥水剤 (パワーベースコート 2) を直接泡の上からかけても問題なく撥水コートが定着します。※特許登録済

内 容 量 10L



エアガン



脚立



掃除機

参考

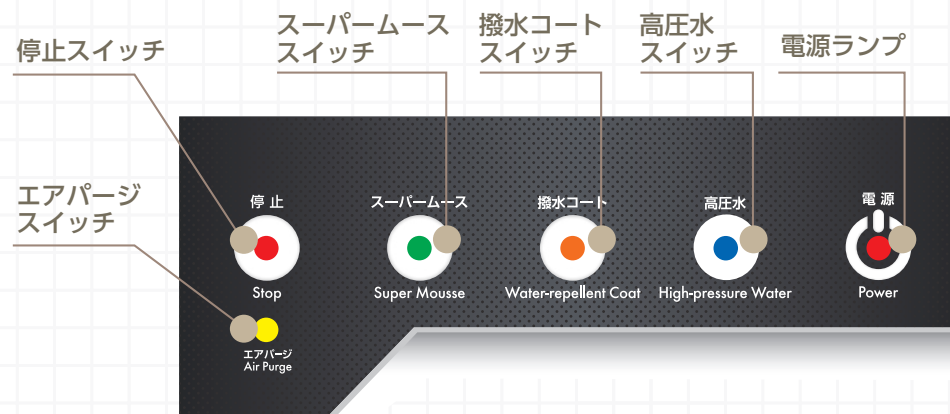
- 脚立は背の高い車に使用します。1BOX車、RV車または背の高い軽自動車など、必要に応じて使用します。

👑 王冠マーク：プレミアム

快洗Jr.5ROの説明

操作パネル

- スーパームーススイッチ：泡ノズルからスーパームースの吐出
- 撥水コートスイッチ：高圧ガンから超撥水コートの吐出
- 高圧水スイッチ：高圧ガンから高圧水の吐出
- エアパーjsスイッチ：泡ホース内の水分を放出
- 停止スイッチ
- 電源ランプ：通電状態で点灯、機械異常のときに点滅



参考

- どのスイッチを押しても快洗Jr.は停止する設計になっています。

ホース

ホースはきちんと伸ばしてから使用します。

注意

- ホースを車両に当てないこと。
- 移動するときはノズルが中圧であることを確認すること。
- ホースを無理に引くと快洗 Jr. が倒れるおそれるがあるため、使用の際は快洗 Jr. を固定して使用すること。

参考

- ホースを戻すときは根元を束ねるとスムーズに収納できます。



ノズル

- ノズルを調整することで、高圧⇄中圧、ワイド⇄スポットを切り替えることができます。
- 高圧噴霧は、ボディの予備洗浄、タイヤハウス・下回りの洗浄に適しています。また洗い流しに使用します。
- 中圧噴霧は、撥水コートに使用します。

ノズル動作 ノズル部分は下記の通り動かします。



圧力調整 ノズルを押すと中圧噴霧、引くと高圧噴霧に切り替わります。

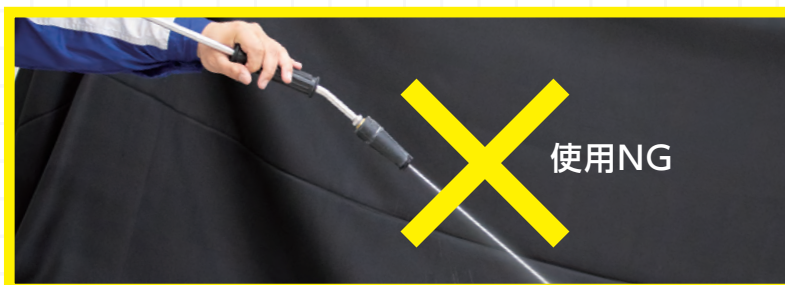
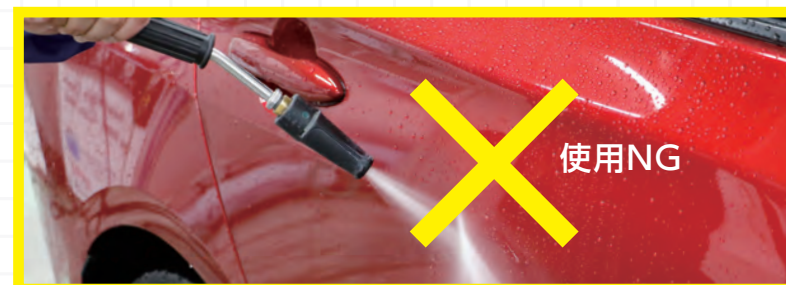


噴霧範囲調整 ノズルを反時計回りに回すとワイド噴霧、時計回りに回すとスポット噴霧に切り替わります。



⚠ 注意

- 高圧のスポット噴霧は、車両の塗装などを傷つけるおそれがあるため使用しないこと。
- ノズルは傷つけるおそれがあるため、車両に近づけて使用しないこと。



純水用ガン 純水用ガンのトリガーを引くと純水が出ます。





登場人物紹介



真島 貴志 (まじま たかし)

はじめの頼れる上司。新人時代は色々ミスも経験したが今は後進の指導をするリーダー。



新田 はじめ (あらた はじめ)

誰よりも洗車&コーティングを上手になりたい新人。好奇心旺盛ですぐ熱中する性格のため、たまに暴走する。

STEP 1 洗車をする前に



目的

ミスを無くし安全に作業するための確認です。



注意事項

※下記の注意事項を必ず読んで内容を確認すること。

✓ 車両の取り扱い方

- 車両をぶつけるおそれがあるため、移動をするときは誘導をつけバックすること。バックをするときは、窓ガラスを開けて誘導者の声が聞こえるようにすること。
- 車両は素手で触らないこと、車両を触るときは必ずタオルを添えて触ること。
- 車両を移動するときは、シートカバーおよび足置きマットなどを使用して、車内に汚れが付かないようにすること。
- 車両を傷をつけないために、作業者が金属類を身につけてないかを確認すること。
- 服装が汚れている場合は着替えをして洗車すること。
- シート、ミラーの位置を変更しないこと。変更しないといけない状況のときはお客様に確認すること。

✓ 脚立を使用する場合

- 脚立は必ずガードを取り付けること。
- ラ・モップⅡやタオルなどで脚立は持たない。

✓ オーダーシートを確認

- メニューを確認します。
- 備考欄を確認してお客様のご要望を確認します。
- 備考欄を確認して車両の注意事項を確認します。
- 作業開始、作業終了時間を確認します。
- オーダーシートを確認して疑問点がある場合は、作業を始める前に受付者へ確認します。

👑 プレミアム純水洗車の場合

- 必ず各STEPのプレミアム作業を行うこと。



車両移動および車両状態確認

- ① シートカバーおよび足置きマットなどを使用して、車内に汚れが付かないようにする。



- ② 車両を快洗 Jr. の 1m ～ 1.5m 前に移動する。

⚠ 注意

- ホースなどを絶対にボディに当たないようにすること。
- エンジンを停止した後は、インロックを防止するために必ずキーは鍵置き場に保管すること。



- ③ アンテナを格納し窓、ドアが開いていないかを確認する。

⚠ 注意

- アンテナは格納し、取り外せるものは外して車内に入れること。
- マグネット類 (初心者マークなど) は外して車内に入れること。





STEP 2 下回り洗浄



目的

車両の下部の洗浄を行う作業です。

👑 プレミアム

① ピッチ除去

- タールリムーバーを使用しボディに付着したピッチ汚れを落とす。

👉 参考

- ピッチは車両の側面に付きやすい汚れです。



② 虫取り

- インセクトリムーバーを使用しボディに付着した虫汚れを浮かす。

⚠️ 注意

- ボディが熱い場合は水をかけて冷ますこと。
- インセクトリムーバーは乾かすとシミになるおそれがあるため確実に洗浄すること。

👉 参考

- 虫汚れは車両の前側に付きやすい汚れです。



③ アンダーウォッシュ

- BDCを下回りに手前から奥へ1往復程度かける。

⚠ 注意

- かけすぎは BDC が残りボタボタ垂れる可能性があるため、かけすぎないこと。
- 専用の下回りスプレー容器を使用すること。



① BDC を中心から「うず」を描くようにゆっくりと 3 周かける。

⚠ 注意

- ホイールが熱を持っている状態のときは、水などで冷やしてから BDC を使用すること。

👉 参考

- あらかじめBDCを吹きつけることでホイールの汚れを落としやすくなります。



② 「高圧水」スイッチを押す。

⚠ 注意

- 必ずノズルが中圧であることを確認してからスイッチを押すこと。水圧の反動によりノズルなどが車両に当たって傷つけるおそれがある。



③ 高圧ガンを持って一番遠い位置に移動する。

⚠ 注意

- 高圧ガンは必ず下に向けた状態で移動すること。

👉 参考

- 快洗Jr.から車両を挟んで一番遠い位置に移動することで、ホースの長さが届く範囲にあるかを確認することができます。
- ホースの付いている方向から移動します。



④ 高圧ガンの幅を指3本分に切り替え、ホイール、タイヤハウス内、下回り洗淨を行う。

- 洗淨動作は2往復行い、車両を1周する。
- しゃがんで、目でしっかり見ながら行う。

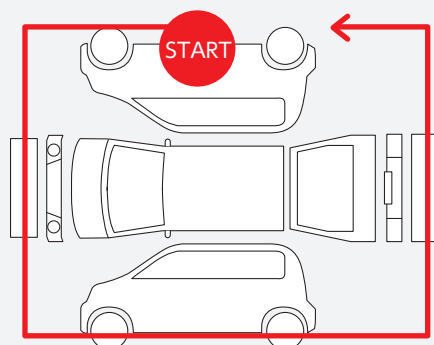
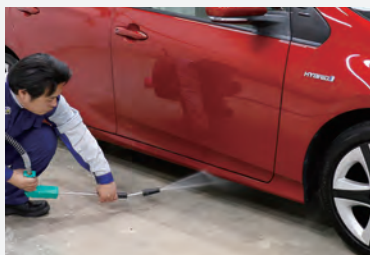


👉 参考

- ☀ 泥などの汚れが確実に落ちたことを確認します。
- ❄ 冬場の洗車の際は、融雪剤が確実に落ちたことを確認します。
- ホイール全体を洗淨して、確実に汚れを落とします。
- しゃがんで、付着している汚れを確認しながら流します。



作業の流れ



下回り



タイヤハウス



タイヤホイール
*BDCをしっかりと流しきる

👑 プレミアム

④ アンダーウォッシュ

- 高圧ガンの幅を指3本分に切り替え、BDCをしっかりと流しきる。

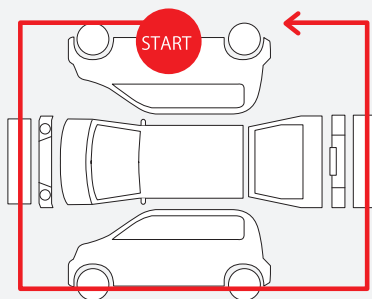
- 手前から奥へ3往復行う、1往復10秒を目安とする。
- 下回りにしっかりと当たるように目で確認して作業する。



👉 参考

- ☀️ 泥などの汚れが確実に落ちたことを確認します。
- ❄️ 冬場の洗車の際は、融雪剤が確実に落ちたことを確認します。
 - ホイール全体を洗浄して、確実に汚れを落とします。
 - シャーゲで、付着している汚れを確認しながら流します。

作業の流れ



下回り



タイヤハウス



タイヤホイール

*BDCをしっかりと流しきる

⑤ ホイールクリーニング

- 専用のスポンジとBDCを使用し汚れを落とす。



STEP 3 予備洗浄

目的 ボディに付いた砂汚れやほこりを洗い流し、ボディの熱冷ましを行う作業です。

- ❶ ボディに付いたほこりをルーフから洗い流す。上面は手前から奥に、側面は上から下へ 1 パネルごとに流す。

- 高圧ガンの幅を指 5 本分に切り替え、ボディまで約 50 cm の距離を保つ。



⚠ 注意

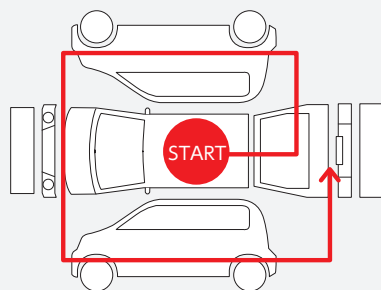
- 高圧ガンは必ず下に向けた状態で移動すること。
- ☀ 夏場、窓ガラスに飛び石の傷がある場合は車両を日陰で冷ましてから洗車を始めること。

📘 参考

- ☀ 泥などの汚れが確実に落ちたことを確認します。
- 🌱 春先は花粉や黄砂が隙間に入りやすいため確実に流します。



作業の流れ



ルーフ



右側面



リア



左側面



フロント

②「停止」スイッチを押して、停止する。



STEP 4 泡かけ

目的 クリーミーな泡のスーパームースをかけることで泡がクッションとなり車両を優しく洗うことが出来る。

①「スーパームース」のスイッチを押す。

⚠ 注意

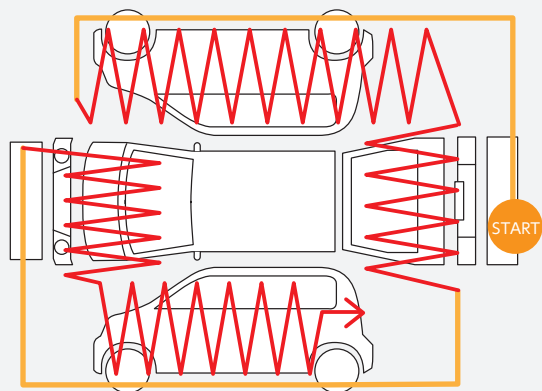
- スーパームースのスイッチを押すと、すぐにスーパームースが吐出するので、ノズルを下に向けて周りに飛び散らないようにすること。



② 下回り、タイヤ・ホイール、ボディ全体にスーパームースをまんべんなくかける。

- 下回りからスーパームースをかけ、一番遠い所へ順次移動する。
- スナップをさせて全体にかける。





下回り



スナップをかけ全体に塗布

参考

- ホースの付いている方向から移動します。
- 風が強い場合は、作業者が風下にならないように体の位置を意識して移動しながら塗布します。
- スーパームースの泡の量は下記の写真が参考です。かけすぎの場合は泡同士が固まってスーパームースが落ちてしまいます。



ホースの付いている方向から移動します。



少ない



適量

適量はこれ！



かけすぎ

③「停止」スイッチを押して停止する。



STEP 5 タッチアップ

目的 洗い残しが無いように隙間なく洗う作業です。

① 片手にタイヤブラシ、もう一方に下・モップを持つ。タイヤブラシでタイヤを3周洗い、下・モップでホイールを3周洗いながら下回りも1周で洗う。

⚠ 注意

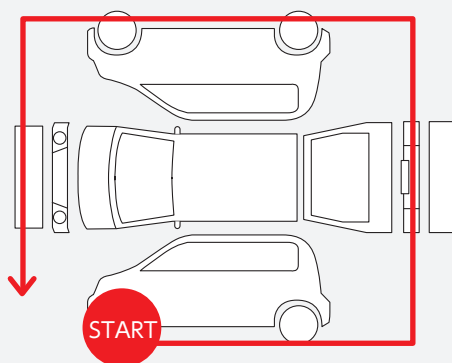
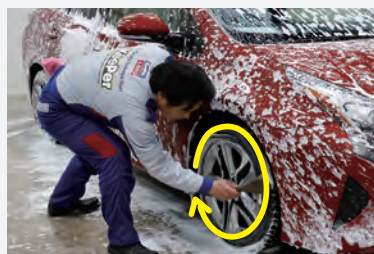
- タイヤブラシでホイール洗わないこと。
- タイヤブラシを車両、ホイールにぶつけないこと。

👉 参考

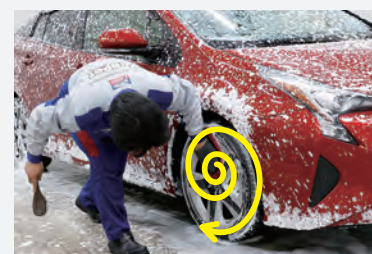
- 下回りは横をなでるように洗うのではなく、裏を確実に洗う意識で作業します。



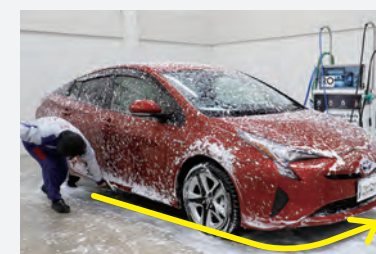
作業の流れ



タイヤを3周



ホイールを3周



下回りを1周

② 両手にボディ用のラ・モップⅡを持ちタッチアップする。

- 自分の洗いあとが確認できるように下がりながら洗う。
- 目線はラ・モップⅡの先端を見るように洗う。
- 側面は枠を取り、塗りつぶすように洗う。
- 上面は塗りつぶしてから枠を取り、洗う。
- フロント周り、リア周りは横方向に洗う。
- ワイパーの下を確実に洗う。



歩幅は
肩幅の 1.5 倍



片方の手で
体を支え、
もう片方の手で
タッチアップ

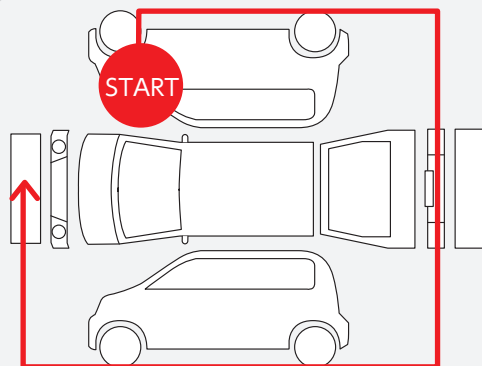
⚠ 注意

- 作業中、乾きやすい場合は水をかけて作業すること。

👉 参考

- 歩幅は肩幅の1.5倍程度に保ち、前後への重心移動で体全体を動かします。
- ラ・モップⅡを使用して、写真のように片方の手で体を支えながら、もう片方の手でタッチアップを行います。

側面

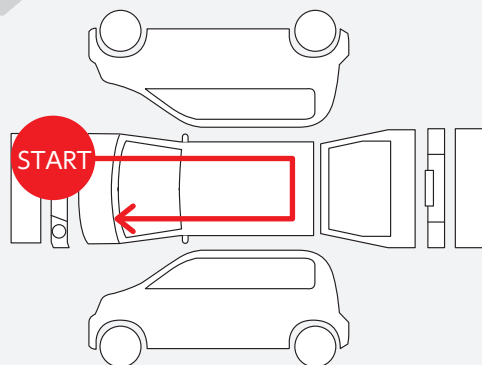


側面は枠を取り、塗りつぶすようにタッチアップします。



フロントとリアは目視で確認しながらしっかり洗う。

上面



上面は塗りつぶしてから枠を取り、
タッチアップします。





STEP 6 洗い流し

 **目的** 泡残りが無いように隙間なく流す作業です。*撥水コート洗車は 38 ページ「撥水コート洗車の場合」を見ること。

手洗い洗車の場合

① 「高圧水」スイッチを押す。

注意

- ノズルが中圧であることを確認してからスイッチを押すこと、水圧の反動によりノズルなどが車両に当たって傷つけるおそれがある。



② 高圧ガンを持って一番遠い位置に移動する。

参考

- ホースの付いている方向から移動します。

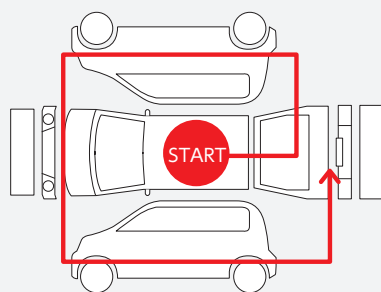


③ ノズルを高圧&ワイドに切り替え、ボディ全体のスーパームースを確実に洗い流す。

- 手前から奥に、上から下へ流す。



作業の流れ



ルーフ



右側面



フロント



左側面



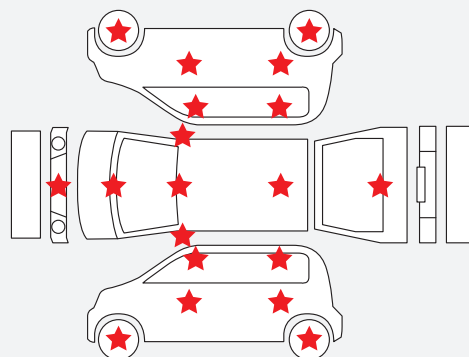
リア

📌 参考

- ワイパー廻り、バイザー、アンテナ、ドアノブ、タイヤ・ホイール、給油口、ドアミラー、フロントグリルの8つのポイントを念入りに洗い流します。

洗い流しのポイント

ワイパー廻り	タイヤ・ホイール
バイザー	給油口
アンテナ	ドアミラー
ドアノブ	フロントグリル



④「停止」スイッチを押して、停止する。



👑 プレミアム

- 洗車後、ピッチ・虫が残っている場合は再度、各クリーナーを付け置きし、スポンジやクロスなどを使用し確実に除去します。

STEP 7 純水すすぎ

📖 目的 純水すすぎは洗車、コーティングの品質を上げ綺麗な仕上がりできる作業です。

① 純水用ガンを持って一番遠い位置に移動する。



② 「純水」のトリガーを引く



③ ボディに付いている水滴を純水に入れ替える。

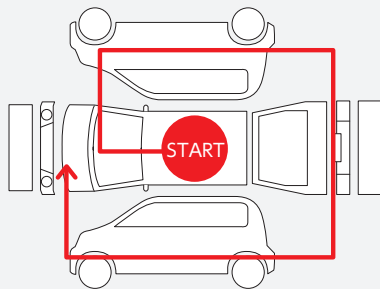
- 純水は流すのではなく入れ替えるイメージで行う。



👉 参考

- 目安、1周 15～20 秒かける。

作業の流れ



ルーフ



右側面



リア



左側面



フロント



STEP 8 水減らし

 **目的** ボディの水滴をおおまかに減らすための作業です。

① プラセーヌを使用して、ボディ全体に付いた水滴を減らす。

- プラセーヌは両手で大きく持って作業すると水減らしの作業効率が良くなります。



⚠ 注意

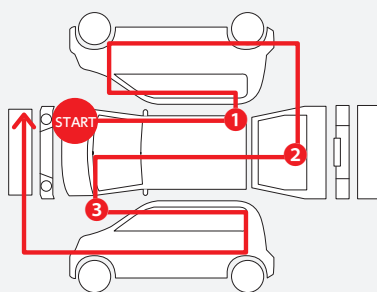
- ミラーにぶつけないこと。
- アンテナや突起物に引っ掛けないこと。

📘 参考

- プラセーヌは一定方向に動かして水滴を減らすこと。
- 拭き上げではなく水を軽く減らすことが目的のため、二度拭きなどをして水滴を吸い取る必要はありません。
- 絞るときは持ち手を離さないで絞ると早くできます。



作業の流れ



①②③ 絞る箇所



右上面



右側面



リア



左上面



左側面



フロント

STEP 9 エアガン処理

 **目的** 細かくて拭き上げができない箇所の水滴処理を行うための作業です。

① エアガンで、ワイパー廻り、バイザー、アンテナ、ドアノブ、タイヤ・ホイール、給油口、ドアミラー、フロントグリルの8つのポイントを一定方向に動かしてエアで水滴を吹き飛ばす。

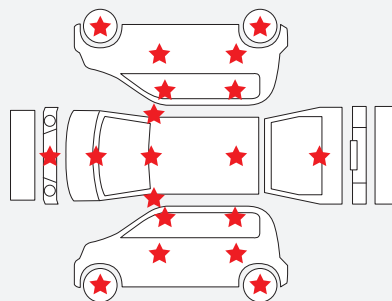
⚠ 注意

- エアガンの先端で車両を傷つけないためにカバーを使用すること。
- エアガンは車両に近づけすぎないこと。(50センチ程度離す)
- 塗装面が弱っているとはがれやすいためエアを当てないこと。
- センターキャップは飛ぶ可能性があるため、隙間にはエアを当てないこと。
- シール、ステッカー類ははがれる可能性があるため、エアを当てないこと。
- モールなどの装飾部品は破損する可能性があるため、エアを当てないこと。



ポイント

ワイパー廻り	タイヤ・ホイール
バイザー	給油口
アンテナ	ドアミラー
ドアノブ	フロントグリル



STEP 10 拭き上げ

 **目的** ボディ、窓の水滴を取るための作業です。

① 窓、バイザーの中の作業をするためにエンジンを始動する。

👉 参考

- 脚立を使用する場合は、ルーフの拭き上げ後エンジンを始動します。



② キーパークロスおよびタオルを使用して、ボディ全体を順番で拭き上げ、ボディや窓に付いた水滴などを丁寧に拭き取る。

- 窓ガラスを下げ、窓ガラスの水滴を拭き取る。
- ボディはキーパークロス、窓はタオル(赤)を使用する。



👉 参考

- 下記のポイント個所は拭き残しが発生しやすいため、必ず確認しながら拭き取るようにします。

右前ルーフ→エンジン掛け→右前窓→右前ドア→右後ルーフ→右後窓→右後ドア→右リアフェンダー→リア周り→左リアフェンダー→左後ルーフ→左後窓→左後ドア→左前ルーフ→左前窓→左前ドア→左フロントガラス→左ボンネット→左フロントフェンダー→フロント周り→右ボンネット→右フロントフェンダー→右フロントガラス



* 脚立有りの場合はルーフを先に仕上げる



ワイパーの下



ドアミラーの裏



窓ガラスの上端
窓ガラスを少し下げ窓ガラスの上端
とバイザーの裏をきちんと拭く



ナンバー周り



レンズ類

③ エンジンを停止する。



STEP 11 ステップの拭き上げ



目的

ボディの内側の水滴を拭き上げるための作業です。

⚠ 注意

- ステップは専用のタオル(白)を用い、きれいな面を常に使用すること。
- 汚れの種類が異なるためタオルを使い分けること。

👉 参考

- ステップなどにゴミや枯葉などがある場合は取り除きます。
- タオルを使い分けることはお客様への安心につながります。

👑 プレミアム

① ステップの汚れ取り

- 水滴を取るのではなく汚れを取る。

👉 参考

- 汚れが取れない場合はガラスアップゼロをスプレーしたクロスで汚れを確実に拭きとる。



① 各ドアを開け、ボディ側とドア側を「8 の字」で拭き上げる。

- ドア回りやステップの拭き上げは運転席側から行います。その際にボンネットオープナーおよび給油口オープナーを引いて開けます。



👉 参考

- ドア・ステップの拭き上げは写真のように一筆で描きながら拭くことで、作業効率が良くなり拭き残しがなくなります。



② テールゲートを開け、ボディ側とドア側を「3 の字」で拭き上げる。

参考

- テールゲートの拭き上げは写真のように一筆で描きながら拭くことで、作業効率が良くなり拭き残しがなくなります。



③ 給油口を拭き上げる。



④ ボンネットを開け、テールゲートと同様にボンネット側とボディ側を「3 の字」を描くように拭き上げる。

注意

- ボンネットステーは指定の箇所に確実に固定すること。
- ボンネットは確実に閉まったことを確認すること。
- アッパーカウルは確実に拭き上げること。

参考

- ボンネットの拭き上げは写真のように一筆で描きながら拭くことで、作業効率が良くなり拭き残しがなくなります。



STEP 12 ダッシュボードの清掃

 目的 運転席から見える箇所を綺麗にする。

👑 プレミアム

① 掃除機掛け

- シート位置をマスキングテープで印をし、シートを後方に移動してマットを取り外し作業をする。足元マットおよび運転席、助手席の足元を掃除し、その周りもきれいにする。

⚠️ 注意

- 足元とシートは掃除機のノズルを変えて使用すること。

📖 参考

- ドアを開けたときのきれいさを演出します。



- ① かたく絞ったキークロスにコックピットクリーナーをつけ、ダッシュボード周りのほこりを拭き取る。エアコンの吹き出し口はクイックルハンディ(推奨)を使用する。

⚠ 注意

- メーターパネル、ナビゲーション、ヘッドアップディスプレイは傷つきやすいため触らないこと。
- ダッシュボードは傷つきやすい素材があるため、注意すること。



② 灰皿の吸い殻を捨てて、きれいする。

⚠ 注意

- エアガンを使用するときは必ず車外で使用すること。



③ タイヤキーパーを塗り、ホイールを拭き上げる。

⚠ 注意

- ホイールはボディと別のタオル(白)を使用すること、そのときタイヤキーパーが多い場合は必ず拭き上げること。



👉 参考

- エアガンでタイヤの水滴を吹き飛ばしておけば、綺麗にタイヤキーパーが仕上がります。
- 塗りムラにならないように、タイヤの内側と角を確実にタイヤキーパーを塗ります。



STEP 13 仕上がり確認



目的

お客様に喜んでいただくための確認です。

- ① 車両から約 1m 離れて、車両周りを一周し、水滴残りを確認する。



- ② 運転席に座りお客様目線でフロントガラス・サイドミラー・スイッチ類の位置などの最終確認をする。



③シートカバー、足置きマットを外す。



💧 撥水コート洗車の場合

※STEP作業は 23 ページの洗い流しを参照すること

①「撥水コート」スイッチを押す。

⚠ 注意

- ノズルが中圧であることを確認してからスイッチを押すこと、水圧の反動によりノズルなどが車両に当たって傷つけるおそれがある。



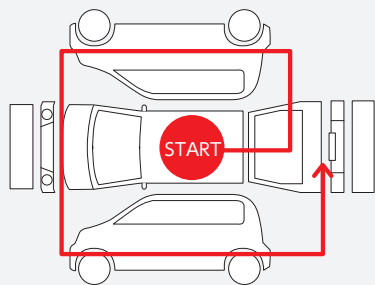
② ノズルを中圧のまま、まんべんなくボディ全体にかける。

👉 参考

- 高圧にすると撥水が出ません。
- ホースに残っている余分な水分をは出しきってから次の動作に移ります。
- 撥水コートをまんべんなくかけながら1周します。



作業の流れ



ルーフ



右側面



フロント



左側面



リア

③「停止」スイッチを押して、停止する。



④「高圧水」スイッチを押す。

⚠ 注意

- ノズルが中圧であることを確認してからスイッチを押すこと、水圧の反動によりノズルなどが車両に当たって傷つけるおそれがある。
- 撥水コートから水に変わっていることを確認すること。



⑤ 高圧ガンを持って一番遠い位置に移動する。

👉 参考

- ホースの付いている方向から移動します。



⑥ 高圧でボディ全体に撥水コートを定着させながら、ボディに付いたスーパームースなどを丁寧に洗い流す。

📌 参考

- 高圧で勢いよく水をかけることにより、撥水コートが定着されます。



⑦ ノズルを高圧＆ワイドに切り替え、ボディ全体のスーパームースを確実に洗い流す。

- 手前から奥に、上から下へ流す。

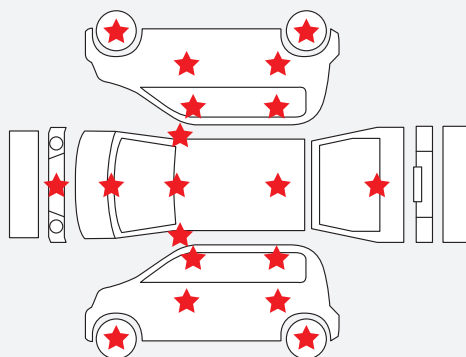


📌 参考

- 特にワイパー廻り、バイザー、アンテナ、ドアノブ、タイヤ・ホイール、給油口、ドアミラー、フロントグリルの8つのポイントを洗い流します。



ワイパー廻り	タイヤ・ホイール
バイザー	給油口
アンテナ	ドアミラー
ドアノブ	フロントグリル



⑧「高圧水」スイッチを押して停止する。





使用ツールと設備の説明



目的

作業を行う前に使用ツール、設備の準備を行う。

使用ツール



ミネラルオフ

- (はっ水阻害被膜除去剤)
- 洗車と一緒にプラス 15 分で施工できます。
 - キーパーコーティング施工車以外も OK。
 - 水はじきを阻害するミネラル膜をスッキリ除去します。

内 容 量 190ml



キーパークロス

- (特殊構造マイクロファイバークロス洗車・車内清掃・ピュアキーパー用)
- コーティング施工車の洗車後の最終拭き上げに最適です。
 - マイクロファイバー(超極細繊維)がすばやく汚れをかき取り、コーティング本来の効果を発揮させます。
 - 他にも車内清掃など、いろんな用途に活躍します。

仕 様 ポリエステル 80%、
ナイロン 20%
サ イ ズ 約400×400mm



スポンジ 赤

(キーパーファイナル1・ホワイトロン用)

サ イ ズ D160mm x W89mm x
H25mm



ダイヤクロス

(ダイヤモンドキーパーケミカル用クロス)
●ダイヤモンドキーパーケミカル拭き上げ用のクロス。

仕 様 ポリエステル 80%、
ナイロン 20%
サ イ ズ 約300×300mm

⚠ 作業上の注意

- 劣化したゴム、プラスチックモールなどは極力触らない。触れた場合は、水に湿らせよく絞ったキーパークロスで拭き取る。

ミネラルオフ(はっ水阻害被膜 除去)



目的

ボディガラスコーティング表面のミネラルを取り、本来のツヤ、水はじきに戻す。



準備

- ① ミネラルオフのボトルを逆さにしてよく振り、キャップの頭を90度ひねる。

⚠ 注意

- 容器を逆さまにして、5 回以上よく振ること。
- 90度ひねると、液剤を出すことができます。



ミネラルオフ作業(ボディが濡れた状態)

① 水をよく絞ったスポンジにミネラルオフを適量付ける。

* 最初は 2 往復 (W 文字)



* 以降は 1 往復 (V 文字)



② 塗り広げ、ミネラル膜を除去する。

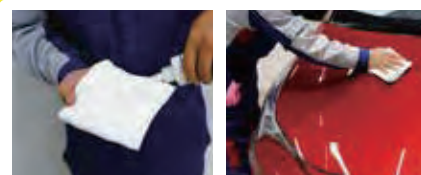
- ボンネット半分位の面積に『隙間』なく、フチまでしっかり塗り広げる。
- ミネラル膜が頑固な場合は、スポンジを絞り、塗り広げたパネルに再度擦り込みながら、ミネラル膜を除去する。

 参考

- スポンジの持ち方は、手のひらを支えるように軽く押さえます。



- ミネラルオフ作業で使用する道具をスポンジから『ダイヤクロス』に替えて作業すると頑固なミネラルがよく掻き取れ、キレイになります。



ダイヤクロス使用例

拭き上げ・確認

① エアガンで隙間の水を追い出し固く絞ったキーパークロスとタオルを両手に持って拭き上げをする。



② 最後に拭き残しが無いか、キーパークロスとタオルを用いて、確認しながら仕上げを行う。



使用ツールと設備の説明



目的

作業を行う前に使用ツール、設備の準備を行う。

使用ツール



レジン2

(レジコーティング剤)

●ダイヤモンドキーパーケミカルの被膜の上に重ね塗りをすることで、強撥水性のレジ被膜を形成することができます。

内 容 量 200ml

ご注文単位 4本

付 属 品
(1本につき) ・ レジン用スポンジ×1
・ レジクロス×2

※ レジン2は4本ごとの注文になります。
注文数にご注意ください。

または



ミネラルオフ

(はっ水阻害被膜除去剤)

●洗車と一緒にプラス 15 分で施工できます。

●キーパーコーティング施工車以外もOK。

●水はじきを阻害するミネラル膜をスッキリ除去します。

内 容 量 190ml



キーパークロス

(特殊構造マイクロファイバークロス)

●コーティング施工車の洗車後の最終拭き上げに最適です。

●マイクロファイバー (超極細繊維) がすばやく汚れをかき取り、コーティング本来の効果を発揮させます。

●他にも車内清掃など、いろいろな用途に活躍します。

仕 様 ポリエステル 80%、
ナイロン 20%
サ イ ズ 約400×400mm

キーパー施工車限定 ミネラル取り洗車 (瞬間水はじき復活)



目的

(ミネラルを取ることではっ水効果を簡単に取り戻すことができます。)

- ① 比較的頑固になってしまったはっ水阻害被膜が付いている場合には、『極少量の「レジン 2 ※クリスタル、ダイヤ、Wダイヤの場合」もしくは「ミネラルオフ」を含ませたキーパークロスで』洗車の最終拭き上げをすると簡単に取り除くことができます。

作業の流れ



洗車する



洗い流す



キーパークロスに極少量の「レジン 2」もしくは「ミネラルオフ」を含ませる



「レジン 2」もしくは「ミネラルオフ」をよく揉みこむ



洗車の拭き上げをしながらはっ水阻害被膜を掻き取る



仕上がり確認で拭き残しがないか確認し完成